

南紀白浜コミュニティ放送株式会社
令和7年4月期 番組審議会の報告

放送事業者は、放送番組の適正化を図るために定期的に番組を審議する番組審議会を行うことが、「放送法」で定められています。FM ビーチステーションでも、白浜町在住の8名の委員によって委員会を開催しています。令和7年4月22日に開催されました番組審議会の内容の一部をご報告します。

事務局：公私お忙しい中、出席を賜り誠に有難うございます。定時になりましたので開催させていただきます。本日視聴いただく番組は、「ラジオ防災講座」です。南海トラフ巨大地震や津波、大雨や土砂災害など様々な災害と向き合う和歌山県で防災意識を高めることを目的に、FM ビーチステーション、和歌山、橋本、田辺の県内4つのコミュニティFMとNHK和歌山放送局が共同制作する防災番組。2024年度6回目の放送は「今こそラジオで防災を」と題し7年ぶりの全編生放送が企画され、ビーチステーション、その他各局でも、同時に生放送を行いました。ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

委員長 各委員からのご意見やご感想をお願いします。

委員 ニュースで災害のことや防災についての話をいろいろと聞く機会が多い。実際に地震が起こったら携帯電話は繋がらないので、ラジオは大切だと思っている。今後もいろんな体験談を月一でもラジオで流してほしい。

委員 以前、白浜町からラジオを配ってもらったが壊れて聴けない。また配ってほしい。

事務局 多くの原因が電池切れと報告を受けていますので、一度ご確認をお願いします。

委員 災害時の放送はどのようになりますか？

事務局 当局は白浜町の臨時災害放送局となり、白浜町からの情報を適宜お伝えすることとなります。

委員 県内の各局が繋がって良い番組だった。これからも続けてほしい。

委員長 南海トラフ地震は心配だがいつ来るかわからないので準備もゆっくりになってしまう。皆さんはどんな準備をしていますか？

委員 バイクのガソリンは常に満タンにしている。阪神淡路大震災ではカブが役に立ったと聞いている。

委員 今までも防災訓練や防災講習会はやってきたと思うが、近年は特に具体的になってきていると

感じる。パーティションを組んでみたり、トイレを組んでみたりして、いよいよ待ったなしになってきたように思う。

委員長 私は小学校 6 年生の時にチリ津波を体験している。あの時は一斉に水がひいてその後 2 回来たのを覚えている。2 回目が大きかった。

委員 決して地元びいきではなく、ビーチステーションの紹介時間が一番わかりやすくて良かった。

委員 FM 和歌山はスターリンクと契約しているとあったがビーチステーションは災害で放送が聴けなくなることはありますか？

事務局 送信所までの音声伝達手段として光回線とバックアップのアナログ回線を敷いていますが、非常用として白浜町の衛星ネットワークであるナーヴネットを利用した回線も常時繋がっていますので、万が一物理的に回線が途絶えた場合でも放送を行う準備は出来ています。

委員 新しい防災番組も聴いた。社会福祉協議会の防災ボランティア訓練の話題だったが、こちらも切羽詰まった内容になっていた。一つの番組で終わるのではなく、他の番組でも繋がりをもって放送に幅を持たせてほしい。

事務局 ご審議有難うございました。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。